

農福連携等応援コンソーシアムへの参加

本コンソーシアムでは、①「ノウフク・アワード」選定による優良事例の表彰・横展開、②農福連携等を普及・啓発するためのイベントの開催、③農福連携等に関する主体の連携・交流の促進などの活動を関係団体及び関係省が連携して行っていくこととしており、その活動に当たり、本コンソーシアムの趣旨にご賛同いただき、参加いただける団体や企業の方の入会を募集しております。

会費等は無料ですので、この機会にノウフクの輪の拡大に向けて、入会をお待ち申し上げております。
(全国団体は会員、個別企業・団体は賛助会員となります。)

入会方法

コンソーシアムに関する詳細は、ノウフクWEBをご覧ください。

コンソーシアムへの入会をご希望される団体や企業の方は農福連携等応援コンソーシアム規約に同意いただき、申込書に必要事項を記入の上、農林水産省農村振興局都市農村交流課 農福連携等応援コンソーシアム事務局までお申し込みください。

幹事会の承認を得て、コンソーシアムにご入会いただくことができます。

●農福連携等応援コンソーシアムについて

<https://noufuku.jp/consortium/>



農福連携等応援コンソーシアムの規約、入会のご案内・申込書は上記ページからダウンロードいただけます。

お問い合わせ

農林水産省 農村振興局 農村政策部 都市農村交流課 農福連携推進室

〒100-8950 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1

電話 03-3502-8111 (内線5448)

メール noufuku@maff.go.jp

一般社団法人 日本基金

〒101-0021 東京都千代田区外神田2-1-4 大京ビル松住町別館401号

電話 03-5295-0070 FAX 03-6206-0117

メール info@nipponkikin.com

※ノウフク商品の取り扱いに関するお問い合わせは、日本基金までご連絡ください。



みんなで耕そう!

ノウフク

NOUFUKU PROJECT

農福連携でつなぐ
社会と企業の
サステナブルな関係



ノウフク — 多様性のプラットフォーム

農林水産業 × 福祉 = ノウフク



「ノウフク」とは、障がいのある人をはじめとする多様な人が農林水産業などの分野で活躍することを通じて、持続可能な共生社会を生み出す取り組みです。

今、障がいのある人をはじめ多様な人が農林水産業の分野で活躍することを通じて、様々な社会問題を解決する取り組みである「農福連携」が全国に広がっています。農業と福祉が連携することを通じて、例えば農業サイドの「担い手不足の解消」「産地の維持」といった課題、福祉サイドの「様々な生きづらさを抱える人の就労先や居場所の確保」といった課題、そのどちらをも解決するだけでなく、立場や役割を超えて多様な人が連携し、つながることで地域のコミュニティを豊かにし、持続可能な共生社会を実現する取り組みとして注目されています。

1. 社会課題の解決を企業の競争力に



「ノウフク」のプロジェクトは国・地域・経済界・生産者・生活者を巻き込む国民運動として推進されています。社会の基盤となる一次産業の産地形成・維持にとって農福連携は重要な役割を果たすだけでなく、多様な関係者を巻き込みで取り組みへの賛同者・ファンを増やすことで、新たなマーケットの醸成を目指しています。ノウフクは持続可能な経営基盤を支えるサプライチェーンの構築、SDGsの達成、企業ブランド価値の向上等、企業に多くのメリットをもたらすと期待されています。

2. 高まるノウフクの機運 農福連携等応援コンソーシアムの設立

近年、農福連携の取り組みが全国的に拡大しており、農林水産省の調べでは2021年度末時点で、全国で5,500以上もの事業者が農福連携に取り組んでいます。政府では、2019年に農林水産省や厚生労働省といった関係府省、有識者から構成される農福連携等推進会議が開催され、当会議において「農福連携等推進ビジョン」が制定されました。ビジョンをもとに、さらに2020年3月、各界の関係者が参加する農福連携等応援コンソーシアム（以下「コンソーシアム」）が設立され、2023年7月現在、賛助会員も含めて483の団体、企業、自治体等が会員となっており、共に農福連携の機運を高めています。

ノウフクJAS



2019年には、ノウフク商品の背景にある「多様であること」に社会的価値を認める「障害者が生産行程に携わった食品の日本農林規格」、いわゆる「ノウフクJAS」が制定され、2023年5月31日時点で、45事業所がノウフクJASに認証されています。認証品目は、ノウフク生鮮食品とノウフク加工食品を合わせて70品目近くに及んでいます。

「耕すみんなを応援する」

コンソーシアムでは、「耕すみんなを応援する」というスローガンの下、ノウフクの社会的認知の向上はもちろんのこと、ノウフク商品の売上向上や多様な立場の人の相互理解を図り、未来につながる持続可能なノウフクのあり方を探求することなどを具体的な目的として活動を行っています。

農福連携等応援コンソーシアム

国・地方公共団体、関係団体等もとより、経済界や生活者、さらには学識経験者など、さまざまな関係者を巻き込んだ国民的運動として推進しています。

参加省庁 農林水産省 厚生労働省
法務省 文部科学省

会員 経団連、JA全中 など 38団体

賛助会員 445団体

※令和5年7月時点。

コンソーシアムの主な活動

優れた取組を表彰する
ノウフク・アワード

企業とノウフク現場がつながって課題を解決する
ノウフク・ラボ



3. ノウフクでつながる 三方良しのマーケット

ノウフク商品が売れると、企業や生活者だけではなく、社会にとって利益になります。障がい者の働く場所が広がったり、農業の人手不足が解消したり、地域課題の解決につながります。企業にとっては、長期的な企業価値の向上が見込めます。この豊かな循環が社会に持続可能性を生み出すのです。

さらに、地球環境や人権などに配慮した商品・サービスを選ぶエシカル消費（倫理的消費）に注目が集まっており、企業がノウフクを応援する機会は広がっています。

身近に広がるノウフクの輪



株式会社ウィズファーム

長野県松川町で障がいのある人と共にリンゴを生産するウィズファームではノウフクJASを取得以降、仲卸業者などからの問い合わせが急増し、大口の取引が決まるなど飛躍的に販路が拡大しました。ノウフクJASリンゴは銀座にある長野県のアンテナショップで市場を大きく上回る価格で販売されているにも関わらず入荷後即日でも売り切れるほどの人気商品です。また、同社が販売するリンゴジュースはその社会的価値が評価され2021年の「おもてなしセレクション」に選出されました。

千房ホールディングス株式会社 × 株式会社和光ワールド



さんさん山城

京都府京田辺市でろう者が中心になって、宇治茶や地域特産の野菜を生産するさんさん山城。さんさん山城産のノウフクJAS商品は、京都市内の料亭やフレンチ、高級ホテルなどで使用され、一流シェフからも高い評価を得ています。また、企業や料理人と連携して、児童養護施設の入所児童に食育や職業体験の機会を提供する「さんさん食育プロジェクト」を発足。幅広い分野の人たちを巻き込んで、支援する側とされる側の垣根を超えた活動を展開しています。

大阪に本社を置く外食チェーン「千房」は、2021年11月からノウフクきくらげを使った冷凍お好み焼（モダン焼）を販売しています。ノウフクJAS認証を受けた愛媛県伊予市の株式会社和光ワールドのきくらげを使い、共同開発しました。千房は、刑務所出所者などの社会復帰を支援する「職親プロジェクト」に取り組んでいます。また、和光ワールドで生産されるきくらげの売上は、就労する障がい者の工賃として還元され、自立支援に役立っています。*就労継続支援B型などの就労支援を通じて生産活動を行った者に対して支払われる対価。

◀ きくらげの収穫作業の様子(写真左) / 「千房国産きくらげ入り豚モダン焼」(同右)

オンラインショップ



2018年10月にオープンした、ノウフク商品が買えるECサイトです。現在、18生産者の魅力あふれる商品を取り扱っています。